

# きょうと福祉倶楽部だより

2018年 1号

## 脳腫瘍で去ったYさんを偲ぶ

数年前わたしたちの事務所で暮らしを支えた大山崎町にお住まいだった脳腫瘍のYさん(要介護⑤)をふっと思い出しました。入院先の病院からは余命1ヶ月の宣告を受けての退院でした。一緒に住むのは独身の息子さん二人。二人とも日中は仕事に出ています。昼間は誰も自宅にいない中で、残された時間をご本人にご家族にも満足いく形で過ごして頂きたいと思い、ケアプランの作成とホームヘルプをわたしたちの事務所でお受けしました。あと1ヶ月しか時間が残されていないなら、急いでプランを作り家で過ごせる時間を少しでもと懸命に準備。

依頼を受けてから在宅医を紹介、訪問看護やホームヘルパー、体調の良いときには人と交流して頂けるデイサービスなど日々の生活が安全にすごせる人の配置をフル回転で準備し、無事に自宅での生活に戻りました。息子さんが出掛けた後にヘルパーは朝は排泄の様子を見るために訪問。お昼は届けられていたお弁当を用いての食事の介助と排泄の確認。



そして夜も同じように支援を続けました。体調が良い日にはデイサービスで入浴と交流。すると余命1ヶ月と二週間か病状は安定という嬉しい結果が。こうなるとまだまだ出来る事を考えられます。

考えたのは障害者手帳を用いた移動支援サービスを用いて、路線バスで10分程度離れた大山崎町老人福祉センターで昔お友達と過ごしたビリヤードの仲間と再会。お互いが涙の感動的な再会でした。何ヶ月かこんな形で過ごしたYさん。いよいよ最期の時間が訪れました。仕事を休んだ息子さん二人に囲まれ、ヘルパーや訪問看護師さんが支える中で生涯を閉じられました。

決して100%の満足のいく環境では無くとも、お友達と息子さんと過ごした時間はYさんにとり満足出来る物では無かったでしょうか？わたしたちの目指す仕事はそういう仕事です。介護は人生をやりある時間を提供出来る物であるべきです。その為に医療と介護のスタッフはあるべきです。

Yさんを支えた先生、訪問看護師さん、薬を届けた薬剤師さん、デイサービスのスタッフ、そしてヘルパー皆さんのチームに感謝！



## 身体障害者手帳を活用しよう



ご承知のように身体が不自由な方が福祉制度とアクセスするためには「身体障害者手帳」の交付を受けることが必要です。

「高齢者は介護保険が優先だから必要が無いのでは？」という勘違いもよく聞かれますがそれは自ら支援を受ける権利を放棄するものです。

「この町で暮らし続けたい」という想いを実現して行くには支援メニューを増やす以外方法はありません。

お金がある方はご自分の視力を駆使して自らの生活を守ることも可能でしょう。でも、そんな潤沢な資金を持つ方がどれだけいるのでしょうか？私たちが暮らす日本の憲法は「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」(25条)とあります。命が貧富の差で差別されてはなりません。障がいがあろうとも誰もが自由に暮らせる国を作るためにも社会保障制度は守り、活用することが求められます。

限られた紙面で全部をご紹介することは困難ですので、ほんの一部だけですがご紹介します。

障害はこのような分類になっています

肢体不自由 音声言語咀嚼  
心臓 腎臓 肝臓 呼吸器 小腸  
ぼうこうまたは直腸  
ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能

個別の障害名について指定医が障害の等級を判断します。その等級によって様々な支援が受けられる「根拠」を示すものが身体障害者手帳です。

どんな支援？

多岐にわたる支援はあります。とりわけ在宅で生活をされる方に一番必要なのは身の回りの世話ではないでしょうか？

介護保険で不足するホームヘルパーの派遣を障害者施策で追加派遣が可能です。私たちの事務所でもこの制度を使い「要介護 5」の一人暮らしのお年寄りをご自宅で暮らしています。

彼女曰く「家に普段は居て、リハビリに行く今の生活が一番ええわ」と暮らしを楽しんでくださっています。

詳細は市町村の担当課かきょうと福祉倶楽部にお問い合わせください。

## 書評

### 戦争をしない国 明仁天皇メッセージ

(文) 矢部 宏治

(写真) 須田 慎太郎 小学館 1000円+税

ISBN978-4-09-389757-0

ドイツのナチスはアウシュビッツでユダヤの人たちを惨殺したことは有名なできごとです。

それだけではなく、ドイツのT4作戦では多くの障がい者を殺しました。平和が脅かされる国で多くの命が「弱者」から順番に奪われてきました。戦争は尊い命を奪うのです。日本も同様に自国民だけでは無く多くの人の命を奪い、奪われました。

まもなく退位される明仁天皇は過去に日本が起こした戦争に学び、二度と起こしてはならぬと言うメッセージをわたしたちに伝えてこられました。

そのメッセージを紹介した本書はこれから日本国民が進むべき道を天皇自らが提案しているように思えてなりません。



この本が紹介する天皇のメッセージの一文をご紹介します。百の理屈より明仁陛下のこの言葉にすべてが凝縮されています。

「この戦争による日本人の犠牲者は約310万人と言われています。前途に様々な夢を持って生きていた多くの人が、若くして命を失ったことを思うと、本当に痛ましい限りです。戦後、連合国軍の占領下にあった日本は、平和と民主主義を守るべき大切なものとして、日本国憲法を作り、様々な改革を行って、今日の日本を築きました」

(80歳の誕生日会見)

わたしたちは高齢者と障がいのある人たちを守りたい。だからこのメッセージを紹介します。

有限会社 **kvw**

おとくに福祉研究所  
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東台101号

TEL 075-958-2560

FAX 075-957-2808

E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp

